

奥越高原青少年自然の家(1/2)

とりのか
大自然



福井県立奥越高原青少年自然の家

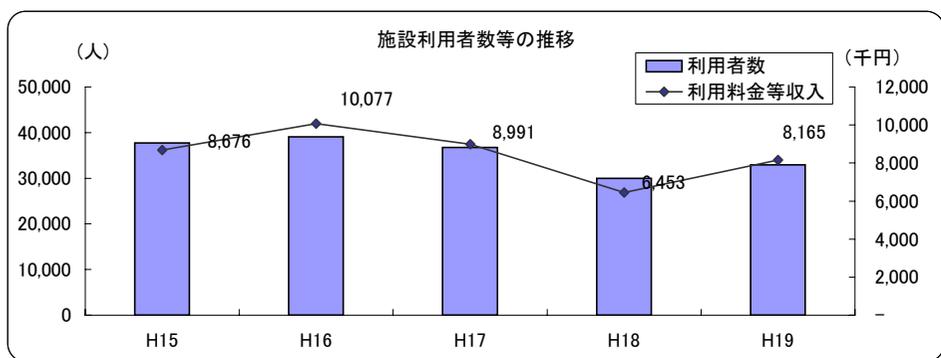
所在地	大野市南六呂師169-8		
設置年月日	昭和47年1月5日		
施設の種類	宿泊・研修施設	施設管理主体	県
設置の目的	青少年を対象とした各種体験活動や研修会などを開催し、心身ともに健全な青少年の育成を図る。		
概要 (構造、面積、主な機能)	鉄筋コンクリート造3階建延7335.93㎡ 宿泊室(350名)、研修室(洋2、和2)、多目的ホール、体育館、スキー用具室、キャンプ場3箇所(428名)		
職員数	職員13人		

利用状況等

	H15	H16	H17	H18	H19
利用者数(人)	37,703	39,085	36,758	30,005	32,951
利用率(%)	26.4	27.4	25.1	20.5	20.5

利用者負担(利用料金)等

宿泊棟 利用料	26歳以上	1,100円
	26歳未満	620円
	高校生	470円
	小・中学生	310円



利用状況の推移	本年度は、降雪に恵まれて、スキー研修を実施することができたので、昨年度より利用者数は増加しました。宿泊棟泊に比べキャンプ場泊の利用が17年度から減少してきており、延利用人数は3万人超で横ばい傾向にあります。
---------	---

施設の特徴

勝山市と大野市にまたがる奥越高原県立自然公園の標高600mに位置し、周囲にある経ヶ岳を中心とする山と溪流、隣接する六呂師スキー場を利用して野外活動が体験できる山岳型拠点施設です。

- ・宿泊棟は最大350人が利用できる大型の施設です。
- ・キャンプ場は3カ所あり、初心者から上級者までレベルに合わせた利用が可能です。
- ・近隣には、県自然保護センター、県奥越高原牧場、ミルク工房奥越前などがあり、四季を通して大自然の中でさまざまな体験活動ができます。



もりっ子ハイキング教室



サマーチャレンジ教室



ファミリーキャンプ



白銀のつどい

奥越高原青少年自然の家ホームページ

<http://info.pref.fukui.jp/syougak/okuetu/hp-1.3/index.htm>

平成19年度の特色について

事業実績	<p>①7日間のサマーチャレンジ教室を実施しました。参加者の保護者の約74%から「整理整頓ができる」「食事の準備・後片付けをする」「自分のことはじぶんです」「自分の考えを言える」「家族と話すようになった」など成長がみられたとの意見がありました。【参加者数:42名】</p> <p>②ファミリーキャンプ・紅葉登山・白銀のつどい等、奥越高原の豊かな自然を活かした主催事業を実施しました。【延参加者数:358名】</p> <p>③『もりっ子教室』として「星空ウオッチング」4回、「ハイキング教室」・「ものづくり教室」を各3回実施しました。【延参加者数:360名】</p> <p>④キャンプカウンセラー研修を養成事業として3回実施しました。また、企画力を付けるため、カウンセラー自身によるステップアップ研修を5回実施しました。【延参加者数:306名】</p>
------	---

奥越高原青少年自然の家(2/2)

行政コスト計算書(平成19年度) (単位 千円)

		総額	構成比	前年比
人にかかるコスト	人件費	135,499	52.6%	104.7%
	退職給与引当金繰入	▲ 156	-0.1%	-
	計	135,343	52.5%	110.6%
物にかかるコスト	物件費	53,924	20.9%	97.0%
	維持補修費	11,994	4.7%	128.3%
	減価償却費	54,485	21.2%	100.0%
	計	120,403	46.8%	100.8%
その他	公債費(利子)	1,683	0.7%	45.9%
	その他	61	0.0%	5.3%
	計	1,744	0.7%	36.2%
合計		257,490	100.0%	104.4%
収入	利用料等収入	8,165	3.2%	126.5%
	その他収入	558	0.2%	111.4%
	一般財源	248,767	96.6%	103.8%

バランスシート(平成20年3月31日現在) (単位 千円)

借方			貸方		
資産		前年比	負債		前年比
有形固定資産	2,080,675	97.4%	固定負債	167,438	95.8%
うち土地	1,879	100.0%	うち起債残高	71,305	62.6%
うち建物	2,119,314	97.5%	うち退職手当引当金	103,415	93.6%
投資等	0	-	流動負債	7,126	16.7%
流動資産	0	-	正味資産	1,906,111	99.4%
計	2,080,675	97.4%	計	2,080,675	97.4%

主な指標 (単位: %、円/人)

	H19	H18	前年比
県民1人あたり有形固定資産額	2,552	2,609	97.8%
県民1人あたり将来負担額	205	213	96.1%
世代間負担率	91.6	89.8	102.0%

バランスシート、行政コスト計算書の特徴	<p>人にかかるコストは、10.6%増加しています。</p> <p>物にかかるコストは、庁舎修繕(5,590千円)等を行ったため維持補修費が28.3%増加しましたが、物のコストの半分を占める物件費の節減により、前年度比0.8%の増に抑えることができました。</p> <p>行政コスト全体では、前年度比4.4%の増加、県民1人あたりの負担額も5.1%増加しています。</p> <p>なお、施設利用者が引き続き減少傾向にあり、利用料金等収入は26.5%減少しています。</p> <p>資産は建物がほぼ100%を占め、減価償却分だけ前年度から資産が減少しています。</p> <p>設備の充実と収容人員の拡大のため、平成7および9年度にかけて宿泊施設の全面改築を行いました。</p> <p>この際に約20億円の借入れを行いました、19年度末残高64百万円まで償還が進んでいます。</p> <p>なお、償還のピークを超えたことから、19年度の償還額は前年度比83.3%減少しています。</p> <p>他地区の青年の家等と比べ、施設が新しく資産規模も大きいことから県民1人あたり有形固定資産額が大きく、起債の償還も残っていることから、県民1人あたり将来負担額も大きくなっています。</p>
施設の目的上、管理運営上、主要な事業	<p>利用団体の活動支援に係る事業 施設の維持管理や主催事業等の実施 (主催事業は職員の日常業務として実施) 【H20予算額: 約66百万円】</p>
今後の課題	<p>17年度から、キャンプ場利用が減少している。原因としては、利用者のニーズに合致していないことにあると思われます。トイレの改修、バリアフリー化など環境整備が必要です。</p> <p>天候に左右されることなく活動ができる設備の充実、アクティビティを開発することが必要です。</p> <p>青少年団体等の受け入れ基準、制限があり利用人数増につなげることができないので、受け入れ基準の見直しが必要です。</p> <p>予算の効果的な執行により、利用者の活動・施設・食事の安全確保にかかる経費を充実させる必要があります。</p>
今後の事業方針取組み内容	<p>変化に富んだ地形・豊かな動植物・四季折々の美しい風景など恵まれた立地条件と、周辺一帯の資源を最大限活用し、登山・キャンプ・ハイキング・魚つかみ・オリエンテーリング等幅広い体験の場となるよう取組みます。</p> <p>また、天候に左右されない環境・食・社会奉仕の3つに力を入れた自然体験活動を取り入れ、実施事業の充実を図ります。</p> <p>学校訪問を積極的に行うほか、ホームページや広報誌を利用した広報活動を行います。また、周辺の施設、地場産業との連携を強化し、新たなアクティビティの開発に努めます。</p>

